

高等学校の英語授業におけるファシリテーション技術に基づく指導が批判的思考態度の育成に及ぼす効果

－英語コミュニケーションⅡの授業実践を通して－

杉田 ちさと*・大場 浩正**
(令和6年9月25日受付；令和6年10月23日受理)

要 旨

本稿の目的は、高等学校の英語授業において、ファシリテーション技術に基づく指導を行うことが、批判的思考態度の育成にどのような効果を与えるのかを検証することである。授業実践では、高等学校2年生の英語コミュニケーションⅡの1クラスを対象に、ファシリテーション技術を活用した帯活動及びライティング活動の指導を行った。本実践研究では、「批判的思考態度尺度」及び「協同作業認識尺度」を用いた事前・事中・事後の質問紙調査に加えて、各単元で実施したライティング課題を量的及び質的に分析することで、その指導の効果を検証することを試みた。その結果、本実践では、ファシリテーションに基づく指導は学習者の思考の深化を促し、批判的思考態度については、客観性の重視、論理的思考態度や探究心の向上に効果がある可能性が質的分析により示唆された。

KEY WORDS

Inquiry-based learning 探究的学習, Critical thinking attitude 批判的思考態度, Facilitation techniques ファシリテーション技術, High school English 高等学校英語科

1 はじめに

令和4年度より高等学校においても新学習指導要領が実施され、「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けた授業改善が求められている（文部科学省, 2018b）。また、「総合的な探究の時間」が設置されるなど、教科横断的に探究をする力の育成がより一層期待されている。すなわち、総合的な探究の時間に限らず、教科学習内における探究的な学習の必要性が高まっていると言えるだろう。

文部科学省（2018b）は「主体的・対話的で深い学び」の実現のためのポイントとして、「知識を相互に関連付けてより深く理解する」「情報を精査して考えを形成する」「問題を見いだして解決策を考える」及び「思いや考えを基に創造する」という4つの技術・能力に向かう「過程」を重視した学習の充実を挙げている。これらを実現する手立てとして、ちょん（2016）の提唱する「内省や思考を深めるオープン・クエスチョン」「深い情報共有」及び「ホワイトボード・ミーティング®における「発散→収束→活用」のプロセスによる話し合いの可視化と構造化」という特徴を持つファシリテーションの技術を用いた指導を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向かうことができると思われる。

2 実践の背景

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編』（文部科学省, 2018a）によると、探究学習が目指す資質能力とは、「課題発見と解決に必要な知識技能」「問いを見つけ、課題を立てて、情報を収集し、整理分析して、まとめ・表現する力」及び「主体的・協同的に取り組み、新たな価値を創造する力」の3点にまとめられている。さらに、道田（2012）がまとめた批判的思考の特質（図1参照）と高等学校学習指導要領の示す探究学習が目指す資質能力を比較対照すると、この2つは非常に似ていることが分かる。このことから、探究学習に必要とされる能力は批判的思考力であると言えるであろう。従って、批判的思考力の育成が探究学習の実現に重要であると考え、「探究学習の成立」を検証する手立てとして批判的思考力の変化を検証することとした。

3 実践の内容と方法

- (1) 実施時期 2023年8月下旬から12月下旬
- (2) 実践対象者 神奈川県内の公立高等学校2年生29名（うち1名は留学生）
- (3) 実践単元 教科書（Grove English Communication II）のLesson 5からLesson 7の3単元
- (4) 単元構想 各単元において、最終ゴールであるパフォーマンス課題を設定し、

その上でバックワードデザインにより単元構想を行った。教科書を用いた指導に関しては2年生全11クラス共通のワークシートを用いて行った（英語コミュニケーションⅡにおいては習熟度別少人数指導を行っているため、11クラスで授業が展開されている）。その他、週1回、副教材の単語帳に基づく単語テストや速読教材も全クラス共通課題として行っている。共通ワークシートによる教科書の内容指導の一部と上述の共通課題以外の時間に、ファシリテーション技術の指導に基づいた学習活動を設定し、批判的思考力の育成を目指した（表1参照）。

最終ゴールとして設定したパフォーマンス課題は、各単元のトピックと関連した話題に関する論題をライティング課題として設定した（表2参照）。このパフォーマンス課題において、ちょん（2016）の提唱するファシリテーション技術の1つであるオープン・クエスチョンとあいづちを用いた「定例進捗会議」をブレインストーミングの手法として活用することとした。オープン・クエスチョンとあいづちは、話し手の内省や思考を深め、深い情報共有を可能にするものである。さらに、ホワイトボード・ミーティング®における「発散→収束→活用」のプロセスによる話し合いの可視化と構造化を行うことで、主体的・対話的で深い学びの実現に必要な「知識を相互に関連付けてより深く理解する」「情報を精査して考えを形成する」「問題を見出して解決策を考える」及び「思いや考えを基に創造する」という学びの過程（文部科学省、2018b）が実現できると思われる。

パフォーマンス課題において、「定例進捗会議」を用いたブレインストーミングを行うために、オープン・クエスチョンとあいづちを活用したペアコミュニケーション（スモールトーク）の活動を設定した。ちょん（2016）による「エンパワーの法則」（①まずは失敗ゼロにする、②小さな成功体験を積み重ねる、③大きな飛躍にチャレンジする）に則り、まずは明るく楽しい話題を設定して取り組んだ。また、オープン・クエスチョンとあいづちに慣れてその効果を実感してもらうために、最初の1週間は日本語でペアコミュニケーションを行い、その後は英語に移行していった。ペアコミュニケーションの話題は「自分だけでなく、その周りの事象（社会）に目を向ける話題」や「より一層の自己開示が必要な話題」へと回数を重ねるごとに難易度を上げていった。さらに、オープン・クエスチョンとあいづちを使い、パートナーの話を聞き、ホワイトボードや紙に書く練習を「定例進捗会議」のやり方を用いて練習した。今回の実践において、ブレインストーミングの手法として行う「定例進捗会議」は思考を深めるツールとして活用することを目的としているため、使用言語は日本語でも英語でも構わないということにし、生徒たちの自己選択、自己決定に任せることとした。

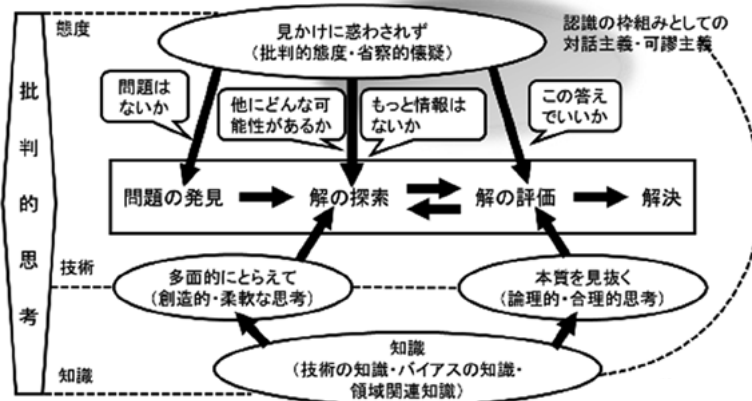


図1 批判的思考の特質（道田, 2012, p. 117より）

表1 授業の一例（批判的思考の育成を目指す活動）

Lesson 7 Part 1	
	<input type="checkbox"/> 単語テスト
10	<input type="checkbox"/> ペアコミュ: What makes a good friend?
	<input type="checkbox"/> Worksheet
20	Read for main ideas
	Read for details
30	Let's read aloud
	True or false
	Sum up
40	Think and share
	What do you usually try to do for your health?
50	

表2 パフォーマンス課題の論題

Lesson 5 あなたはカフェのオーナーです。最近、スターバックスなどの大手チェーンでも紙のストローを使い始めましたが、あなたのお店では紙のストローを導入しますか？それともプラスチックのストローを使い続けますか？またはその他の材料で作られたストローを導入しますか？ (または、それ以外の案でも良いです。) お客様が納得できるような説明を添えて、あなたのお店の方針を示してください。 Q. What kind of straw will you use for your café?
Lesson 6 あなたは文部科学大臣です。高等学校の新しい学習指導要領を発表するにあたり、今後この技術発展の著しい社会を生き延びるために高校生のうちに習得すべき能力や技術について、高校生にメッセージを送る予定です。高校生が納得して学習に取り組めるよう、今後の社会の展望を説明しながら、なぜそのような能力や技術を学ぶ必要があるのか説得力のあるメッセージを考えましょう。 Q. What skills needs to be learned in high school to survive this advanced technology society?
Lesson 7 日本でも2021年に孤独・孤立対策大臣が指名され、内閣官房に孤独・孤立対策担当室が立ち上がりました。あなたは、対策室の高校生ワーキンググループに参加し、若者の視点で孤独・孤立対策を考えることになりました。あなたなら、どんな孤独・孤立対策を提案しますか？あなたの提案が採用されるよう、周りの人たちに「なるほど!」と思ってもらえるような理由や根拠、具体例などを述べながら提案書を作成してください。 Q. What kind of activity would you propose to help solve the issues of loneliness?

批判的思考力を用いて作文をすることや批判的的作文について、道田(2012)は、荻谷(1996)を引用しながら以下のように整理している。

- ①トピックについて問を立て、それについて考えたり、情報収集を行う。
- ②「根拠(論拠)」を持って主張する。
- ③「問い」「根拠」「主張」を妥当なものにした後、文と文のつながりに気をつけながら文章を書いていく。

1点目の問いを立てるプロセスは、前述のオープン・クエスチョンとあいづちによるブレインストーミングで達成できると考える。2点目と3点目については、既存の教科を教える中で思考の一般原則を明示的に指導する方法であるインフュージョンアプローチ(Ennis, 1989)に基づく授業を、パフォーマンス課題の前に行った。「根拠(論拠)」を持った主張を展開できるようになるために、事実と意見の違いについて例文を用いて説明し、客観性について学習をする機会を設けた。さらに、文と文のつながりについては、英文エッセイライティングの基本的な構成として、Opinion(主張)、Reason(理由)、Example(具体例)の3つの構成要素で成り立つOREO型ライティング(山本・上原・浦崎・大城, 2018)を用い、論理の流れを示した。

4 調査の方法

4. 1 データの収集

授業実践を行った英語コミュニケーションⅡを受講する、留学生1名を除く28名を対象に、全38項目から成る質問紙調査(5件法)を実施した(資料参照)。調査項目には、批判的思考態度尺度(楠見・村瀬・武田, 2016)及び協同認識尺度(長濱・安永・関田・甲原, 2009)を使用した。批判的思考態度尺度を用いた調査は、ファシリテーション技術に基づいた指導を行うことで批判的思考態度に変化があるかどうかを測定することを目的として行った。協同認識尺度に関しては、ファシリテーション技術を用いた活動はペアまたはグループで行うため、協同作業に関する認識がどう変化するかを批判的思考態度の変化と共に分析する目的で実施した。

4. 2 分析方法

分析の手順として、まず、批判的思考態度及び協同認識尺度の各項目について一要因分散分析を行い、授業実践前、中、後に実施した質問紙調査の結果について統計的に有意な効果が見られるかどうかを確認した。この一要因分散分析の対象者は3回の質問紙調査に全て回答した15名とした。次に、パフォーマンス課題を内容、構成、英語の3観点のルーブリック(表3参照)を用いて評価し、その得点の変化を、一要因分散分析を用いて分析した。なお、このルーブリックは毎回のパ

表3 パフォーマンス課題評価用ルーブリック

	A	B	C
内容	事実と意見の違いを意識し、客観性のある理由や具体例を挙げ、説得力のある文章が書けている	主張を支える理由や具体例を挙げて書けているが、客観性に欠ける(意見ばかりになっている)	主張はあるが、それを支えるような理由や具体例になっていない
構成	OREOの型ができており、R、Eについて2文以上書けている	OREOの型はできているが、R、Eが1文ずつしか書けていない	OREOのうち、どれか1つ以上が抜けている。または、OREOの型通りになっていない
英語	言いたいことが良く表現されていて、ローカルエラーも2個以下である	ローカルエラーはあるが、言いたいことは伝わる	単語や文法の間違いが多く、何を言いたいのかが伝わらない

パフォーマンス課題の際に生徒にも提示しているものである。分析は、3回のパフォーマンス課題を全て提出した17名を対象として行った。最後に、批判的思考態度が英作文の得点に与える影響を調べるため、英作文の得点を従属変数、批判的思考態度の7つの各因子（証拠の重視、探究心、論理的思考、客観性、考えの深め方、授業の受け方、意見の聞き方）を説明変数として、質問紙調査及びパフォーマンス課題の各3回の結果についてそれぞれ重回帰分析を実施した。この重回帰分析は、3回の質問紙調査及びパフォーマンス課題を全て提出した13名を対象として行った。

さらに、量的分析に加えて、提出されたパフォーマンス課題や質問紙調査および振り返りの自由記述を質的に分析し、本実践の効果を考察した。

5 結果と考察

5.1 量的分析

表4は、批判的思考態度及び協同認識尺度の各因子の平均値と標準偏差を示している。一般的批判的思考態度の変化を検討するために行った一要因分散分析の結果、「論理的思考」において主効果が有意となった（ $F(2, 28) = 4.30, p = .03$ ）。ただし、多重比較（Holm法）の結果、いずれの水準の組み合わせにも有意な差は見られなかった。

学習場面の批判的思考態度については、「授業に基づく考えの深め方」（ $F(2, 28) = 2.72, p = .08$ ）及び「授業の受け方」（ $F(2, 28) = 2.84, p = .09$ ）において主効果が有意傾向を示した。

しかしながら、多重比較（Holm法）の結果、どちらの因子において、いずれの水準の組み合わせにも統計的に有意な差は見られなかった。

協同作業認識尺度のうち、「協同志向」と「互惠効用」は、本来は「個人志向」と「互惠懸念」であったが、各項目の得点を反転させることで高得点であるほど協同への認識が高いことを示すようにし、一要因分散分析を行った。したがってそれらの因子については、「協同志向」と「互惠効用」とし、「協同効用」を含めた3因子を協同3因子として分析した。その結果、「協同効用」について主効果が有意となった（ $F(2, 28) = 3.43, p = .047$ ）。しかし、多重比較（Holm法）では、いずれの水準の組み合わせにも統計的に有意な差は見られなかった。

以上の結果から、今回の授業実践によって、一般的批判的思考態度においては「論理的思考」、学習場面の批判的思考態度においては、「授業に基づく考えの深め方」及び「授業の受け方」、協同作業認識においては、「協同効用」について授業実践による変化が示唆されたが、いずれも統計的に有意な変化までには至らなかったと言える。

次に、パフォーマンス課題の得点の変化（表5参照）について3観点（内容、構成、英語）及び合計点数をそれぞれ一要因分散分析を用いて分析したところ、いずれの主効果も有意ではなかった。最後に、3回の質問紙調査における批判的思考態度の各因子と英作文の得点の因果関係を探ることで、批判的思考態度が英作文に影響を与えているかを検討した。従属変数

を英作文の得点、説明変数を批判的思考態度の7つの各因子として、質問紙調査及びパフォーマンス課題の各3回の結果にそれぞれ重回帰分析を実施した。この結果、2回目の質問紙調査の結果とパフォーマンス課題の得点においてのみ、「客観性」の影響が有意傾向であることが分かった（ $R^2 = .59; b = 2.31, SE = 1.10, \beta = 1.12, t(5) = 2.10, p = .09$ ）。しかしながら、その他6因子については有意な影響は見られなかった。この結果から、批判的思考態度の「客観性」が英作文の評価に影響を与える可能性が示唆された。

表4 批判的思考態度及び協同認識尺度の各因子の平均値と標準偏差（括弧内）

一般的批判的思考態度		(n=15)		
因子	授業実践前	授業実践中	授業実践後	
証拠の重視	3.80 (0.73)	3.73 (0.80)	3.83 (0.72)	
探究心	4.00 (0.63)	3.90 (0.97)	4.03 (0.64)	
論理的思考	3.51 (0.68)	3.71 (0.68)	3.91 (0.66)	
客観性	3.49 (0.69)	3.51 (0.74)	3.71 (0.76)	
学習場面の批判的思考態度				
因子	授業実践前	授業実践中	授業実践後	
授業に基づく考えの深め方	2.71 (0.70)	2.50 (0.73)	2.76 (0.73)	
授業の受け方	2.93 (0.84)	3.03 (0.97)	3.37 (0.90)	
意見の聞き方	3.40 (0.95)	3.30 (0.94)	3.57 (1.03)	
協同作業認識尺度				
因子	授業実践前	授業実践中	授業実践後	
協同効用	4.09 (0.50)	4.07 (0.49)	4.27 (0.44)	
協同志向	2.93 (0.75)	3.06 (0.54)	3.01 (0.52)	
互惠効用	4.11 (0.86)	4.18 (0.71)	4.02 (0.83)	

表5 パフォーマンス課題の平均値と標準偏差（括弧内）

観点	Lesson 5	Lesson 6	Lesson 7
内容	2.34 (0.79)	2.41 (0.62)	2.12 (0.70)
構成	1.65 (0.86)	1.65 (0.79)	1.76 (0.90)
英語	2.41 (0.62)	2.12 (0.49)	2.29 (0.47)
合計	6.41 (1.62)	6.18 (1.33)	6.18 (1.42)

5. 2 質的分析

パフォーマンス課題は、まず個人で論題を読み、自分の主張を決め、次にペアで「定例進捗会議」（ちょうん、2016）の手法を用いてブレインストーミングを行う（この際、ワークシートは交換）。ファシリテーター（聞き手）に話したことを書いてもらい、書いてもらった構想メモ（ブレインストーミング内容）を基に、単語や自分の主張の根拠となる事実などを調べてメモし、約20分間でライティングを仕上げるという手順で行った。ここでは、2人の学習者のパフォーマンス課題の分析と考察を示す。

1回目のパフォーマンス課題に関する生徒Aのワークシート（図2参照）の構想メモには「紙ストロー、環境に優しい、SDGs、環境問題」と書かれており、英作文の中でもそれらについて述べられているものの、その理由を支えるような具体例や説明が不十分であった。2回目のワークシート（図3参照）の構想メモでは、「いろんな人と会話できる。世界観が広がる」や「様々な情報があるなかで自分の意見を自分の言葉で発信する」と1回目と比べて、思考を深化させている様子がうかがえる。そして3回目のワークシート（図4参照）の構想メモでは、発散したアイデアを収束し、活用の段階まで到達したことが分かる。垣根を越えて交流することが孤独の解消につながるということを、エピソードを交えながら思考を深化させてブレインストーミングを行っている様子がうかがえる。英作文においても、“...typically as we grow older, we only interact with certain people...it creates distance between we and people we don't interact with”（原文のママ、一部抜粋：一般的に、年を取るにつれて一定の人としか交流しなくなる。それは、交流がない人との間に距離を作ることになる）と1回目と2回目ではほとんどみられなかった客観的事実も交えて根拠を述べている。

以上のように、「定例進捗会議」を用いたブレインストーミングに思考の深化がみられ、英作文の内容にもそれが表れている。このことから、生徒Aについては、客観性を意識することや論理的に説明をしようとする態度が向上したのではないかと推察する。また、質問紙調査の「ペアコミュニケーションなどの活動を通して、自分の思考力に変化はありましたか」という問いに対し、「あった。理由：前よりも話すアイデアやそれを言葉に表すことがすぐできるようになったから」（原文のママ）と記述しており、生徒A自身も思考力の向上を実感していた様子である。

Figure 2 shows the first round of a performance task for Lesson 5. The worksheet is divided into three main sections: Topic (課題), Brainstorming (構想メモ), and Research (単語や情報など調べたこと). The Topic section asks students to decide on a straw for their cafe. The Brainstorming section contains handwritten notes in Japanese about paper straws, SDGs, and environmental issues. The Research section is empty. The writing section on the right shows the student's response in English, discussing the decision to use paper straws and the reasons related to environmental issues and SDGs.

図2 生徒AのLesson 5のパフォーマンス課題の内容（1回目）

Figure 3 shows the third round of a performance task for Lesson 6. The worksheet is divided into three main sections: Topic (課題), Brainstorming (構想メモ), and Research (単語や情報など調べたこと). The Topic section asks students to think about the skills needed to survive in an advanced technology society. The Brainstorming section contains handwritten notes in Japanese about communication skills, social interaction, and the importance of expressing one's opinion. The Research section is empty. The writing section on the right shows the student's response in English, discussing the need for communication skills in an advanced society and the importance of expressing one's opinion.

図3 生徒AのLesson 6のパフォーマンス課題の内容（3回目）

次に、生徒Bのパフォーマンス課題の分析である。1回目のワークシート（図5参照）の構想メモでは、紙ストローを採用しつつも、その反証となるような紙ストローの欠点も挙げられている。これらを組み合わせて英作文ができれば、より多面的な視点で論じることができるが、出来上がった英作文を見ると、そこまで言及はされていない。理由を支える客観的事実は“*We can reduce plastic by using paper*”（紙製品を利用すれば、プラスチックを削減できる）の1文だけとなっている。2回目のワークシート（図6参照）の構想メモからは1回目と比較して思考の深化の変容はあまり読み取れない。しかし、1回目はパラグラフライティングのOREO型（Opinion：主張，Reason：理由，Example：具体例，Opinion：主張）が未完成だったのに対し、2回目の英作文ではOREO型ができています。また、例として、“*they are used not only at work but also in school classes*”（それらは職場で使われるだけでなく、学校の授業でも使われている）と具体的に客観的な事実を挙げて説明ができています。そして3回目のワークシート（図7参照）の構想メモからは、「月1でひんぱんに開催、お祭り、会話する会、スポーツ大会」など具体的なアイデアを述べていることが分かる。ファシリテーター（聞き手）側も「定例進捗会議」のやり方に慣れてきて、うまくオープン・クエスチョンを用い、話し手が思考を深化させている様子がうかがえる。英作文に関しては、2回目できていたOREO型について、理由を支える具体例が欠けており、今一つ説得力のある文章になっていないが、語数の変化をみる

Topic (議題)
日本でも2021年に実施。異文化理解が目的で、内閣府が実施。異文化理解事業が広がりつつある。あなたは、対策委員のワーキンググループに参加し、若者の視点で異文化理解事業を考えることになりました。あなたなら、どんな異文化理解事業を提案しますか？あなたの提案が採用されるよう、周りの人たちに「なるほど」と思ってもらえるような理由や具体例、具体的なことを述べながら提案書を作成してください。

What kind of activity would you propose to help solve the issues of loneliness?

Your opinion (主張)
I would propose...

Brainstorming (構想メモ)
学内での活動
① 異文化理解の場
② 異文化理解の場
③ 異文化理解の場
④ 異文化理解の場
⑤ 異文化理解の場
⑥ 異文化理解の場
⑦ 異文化理解の場
⑧ 異文化理解の場
⑨ 異文化理解の場
⑩ 異文化理解の場
⑪ 異文化理解の場
⑫ 異文化理解の場
⑬ 異文化理解の場
⑭ 異文化理解の場
⑮ 異文化理解の場
⑯ 異文化理解の場
⑰ 異文化理解の場
⑱ 異文化理解の場
⑲ 異文化理解の場
⑳ 異文化理解の場
㉑ 異文化理解の場
㉒ 異文化理解の場
㉓ 異文化理解の場
㉔ 異文化理解の場
㉕ 異文化理解の場
㉖ 異文化理解の場
㉗ 異文化理解の場
㉘ 異文化理解の場
㉙ 異文化理解の場
㉚ 異文化理解の場
㉛ 異文化理解の場
㉜ 異文化理解の場
㉝ 異文化理解の場
㉞ 異文化理解の場
㉟ 異文化理解の場
㊱ 異文化理解の場
㊲ 異文化理解の場
㊳ 異文化理解の場
㊴ 異文化理解の場
㊵ 異文化理解の場
㊶ 異文化理解の場
㊷ 異文化理解の場
㊸ 異文化理解の場
㊹ 異文化理解の場
㊺ 異文化理解の場
㊻ 異文化理解の場
㊼ 異文化理解の場
㊽ 異文化理解の場
㊾ 異文化理解の場
㊿ 異文化理解の場

Research (事例や情報など調べたこと)
- 目的は Typically - 一定の certain.

図4 生徒AのLesson 7のパフォーマンス課題（3回目）

Topic (議題)
あなたはカフェのオーナーです。最近、スターバックスなどの大手チェーンでも紙のストローを廃止しましたが、あなたのカフェでは紙のストローを導入しますか？それともプラスチックのストローを使い続けますか？またはその他の材料で作られたストローを導入しますか？（これは、あなたの店でも良いです。）お客様が納得できるように説明を考えて、あなたのカフェの方針を述べてください。

What kind of straw will you use for your cafe?

Your opinion (主張)
We have decided to use paper straw.

Brainstorming (構想メモ)
紙ストローのメリット
① 環境に優しい
② 紙ストローは自然に分解される
③ 紙ストローは再利用できる
④ 紙ストローは再利用できる
⑤ 紙ストローは再利用できる
⑥ 紙ストローは再利用できる
⑦ 紙ストローは再利用できる
⑧ 紙ストローは再利用できる
⑨ 紙ストローは再利用できる
⑩ 紙ストローは再利用できる
⑪ 紙ストローは再利用できる
⑫ 紙ストローは再利用できる
⑬ 紙ストローは再利用できる
⑭ 紙ストローは再利用できる
⑮ 紙ストローは再利用できる
⑯ 紙ストローは再利用できる
⑰ 紙ストローは再利用できる
⑱ 紙ストローは再利用できる
⑲ 紙ストローは再利用できる
⑳ 紙ストローは再利用できる
㉑ 紙ストローは再利用できる
㉒ 紙ストローは再利用できる
㉓ 紙ストローは再利用できる
㉔ 紙ストローは再利用できる
㉕ 紙ストローは再利用できる
㉖ 紙ストローは再利用できる
㉗ 紙ストローは再利用できる
㉘ 紙ストローは再利用できる
㉙ 紙ストローは再利用できる
㉚ 紙ストローは再利用できる
㉛ 紙ストローは再利用できる
㉜ 紙ストローは再利用できる
㉝ 紙ストローは再利用できる
㉞ 紙ストローは再利用できる
㉟ 紙ストローは再利用できる
㊱ 紙ストローは再利用できる
㊲ 紙ストローは再利用できる
㊳ 紙ストローは再利用できる
㊴ 紙ストローは再利用できる
㊵ 紙ストローは再利用できる
㊶ 紙ストローは再利用できる
㊷ 紙ストローは再利用できる
㊸ 紙ストローは再利用できる
㊹ 紙ストローは再利用できる
㊺ 紙ストローは再利用できる
㊻ 紙ストローは再利用できる
㊼ 紙ストローは再利用できる
㊽ 紙ストローは再利用できる
㊾ 紙ストローは再利用できる
㊿ 紙ストローは再利用できる

Research (事例や情報など調べたこと)

図5 生徒BのLesson 5のパフォーマンス課題（1回目）

Topic (議題)
あなたは文部科学大臣です。高等学校の新しい学習指導要領を策定するにあたり、今後この技術発展の激しい社会を生き抜くために高校生が身につけるべき能力や技術について、高校生にメッセージを送る予定です。高校生の将来に役立つ能力や技術として、今後の社会の発展を促しながら、なぜそのような能力や技術を学ぶ必要があるのか説明のあるメッセージを考えましょう。

What skills needs to be learned in high school to survive this advanced technology society?

Your opinion (主張)
You need to learn...
how to use machine such as computers

Brainstorming (構想メモ)
将来に必要になる能力や技術
① 英語力
② 英語力
③ 英語力
④ 英語力
⑤ 英語力
⑥ 英語力
⑦ 英語力
⑧ 英語力
⑨ 英語力
⑩ 英語力
⑪ 英語力
⑫ 英語力
⑬ 英語力
⑭ 英語力
⑮ 英語力
⑯ 英語力
⑰ 英語力
⑱ 英語力
⑲ 英語力
⑳ 英語力
㉑ 英語力
㉒ 英語力
㉓ 英語力
㉔ 英語力
㉕ 英語力
㉖ 英語力
㉗ 英語力
㉘ 英語力
㉙ 英語力
㉚ 英語力
㉛ 英語力
㉜ 英語力
㉝ 英語力
㉞ 英語力
㉟ 英語力
㊱ 英語力
㊲ 英語力
㊳ 英語力
㊴ 英語力
㊵ 英語力
㊶ 英語力
㊷ 英語力
㊸ 英語力
㊹ 英語力
㊺ 英語力
㊻ 英語力
㊼ 英語力
㊽ 英語力
㊾ 英語力
㊿ 英語力

Research (事例や情報など調べたこと)

図6 生徒BのLesson 6のパフォーマンス課題（2回目）

I would propose to increase the number of exchange meeting and temporary...
The reason is that typically as we grow older we only interact with certain people. On the other hand, it creates distance between us and people we don't interact with. So it creates loneliness. Therefore, if it increase the number of exchange, we can communicate with new people and decrease loneliness naturally. In conclusion I propose to increase the number of exchange meeting and temporary...

We have decided to use paper straw.
I have two reasons. I think so.
First, plastic is bad for the environment. We can reduce plastic by using paper.
Second, drinking of paper straw is easier than plastic straw.

You need to learn how to use machine such as computers and smart phone. I have two reasons. I think so.
First, it is very convenient. Currently, they are used not only at work but also in school classes.
Second, it is important for our future.
For these reasons, high school students should be able to use them.

と、1回目38語、2回目58語、3回目62語とある程度まとまった量の文章を書けるようになってきている。また、生徒A同様に、授業を通して思考力に変化があったかを問う質問紙調査の自由記述に、生徒Bは「様々な人の意見を聞くことができ、色々なしてんでかえることができる。」(原文のママ)と記述している。ペアコミュニケーションや「定例進捗会議」などの活動を通じて、多面的に思考することができるようになった実感があったようである。

このように、5件法による質問紙調査においては統計的に有意な変化は確認できなかったが、パフォーマンス課題の質的分析により、授業実践を経るにしたがって思考の深化、客観性の重視や論理的思考の態度が向上したと推測される。

表6と表7は授業実践後に行った質問紙調査の自由記述として設定した2つの質問に対する生徒の記述を、観点別にまとめたものである。道田(2012)によると、批判的思考は「見かけに惑わされない態度」「多面的に捉える拡散スキル」及び「本質を見抜く収束スキル」の3つの構成要素に支えられている。生徒の記述から、特に「多面的に捉えるスキル」に関する記述が多くみられた。



図7 生徒BのLesson 7のパフォーマンス課題(3回目)



表6 授業実践後の質問紙調査の自由記述①

「ペアコミュニケーションなどの活動を通して、自分の思考力に変化はありましたか」	
観点	生徒による記述内容(原文ママ)
深い思考	・より考えるようになった ・あった他の意見を聞くことによって発展させた考えができた ・定例進捗会議は意見が整理出来ていい ・オープンクエスチョンを使うことで、その質問によって色々な方向から考えることができるため、深く思考ができるようになった
多様な視点	・様々な人の意見を聞くことができ、色々な視点で考えることができた ・意見交換によって視野が広がった ・色々な人の考えを知れたし、自分の考えを伝えた ・様々な人の意見を聞けるから
伝える力	・相手に分かりやすく伝えようと思いました ・前よりも話すアイデアやそれを言葉に表すことができるようになった ・ペアコミュニケーションを多くやったことで人に伝える能力がついた ・頑張って英語で話すという力がついたと思います。また、自分の知っている単語を使って最大限に相手に伝わるような工夫ができたからだと思います ・少しだけずらずと話せるようになった

表7 授業実践後の質問紙調査の自由記述②

「2学期のこの授業を通して最も学んだと思うことは何ですか」	
観点	生徒による記述内容(原文ママ)
態度	・話す機会を増やすと話すことに抵抗がなくなること ・失敗を恐れない
知識・技能	・ライティング ・会話文 ・ボキャブラリー ・オープンクエスチョンを使うことで、その話題についてより深く学ぶことができるため、英語以外の教科や作文を考える際に役に立つと思った ・技術の発展は私たちの未来をよりよくしてくれるということ
コミュニケーション	・自分の伝えたいことを英語で言葉にして表すことです ・自分の頭で考えたりそれを他者に言葉で伝えるのは大切な事 ・話の深め方、意見の出し方 ・英語で人に自分の考えを伝えること ・人とのコミュニケーション ・話を広げる力 ・自分の思っていることを英語にして話すのは難しい

6 まとめと今後の課題

本授業実践により、以下のことが明らかとなった。まず、量的分析の結果から、批判的思考態度については、「論理的思考」「授業に基づく考えの深め方」及び「授業の受け方」において伸長していく傾向は認められたものの、統計的に有意な伸長には至らなかった。協同作業認識に関しても、「協同効用」について同様の結果であった。また、批判的思考態度が英作文の評価に与える影響については、「客観性」が影響を与える可能性が示唆されただけであった。

次に、質的な分析から、ファシリテーション技術に基づく指導が思考の深化を促し、批判的思考態度においては客

観性の重視、論理的思考態度や探究心の向上に効果がある可能性が示唆された。

本実践研究の課題としては、本実践で行ったブレインストーミングの手法は、ペアで行い、聞き手が話し手の話している内容を書き留めていくため、聞きながら書くスキルが身につけていないと構想メモが完成しない点が挙げられる。すなわち、ペアになる相手によって、ブレインストーミングの質が左右されてしまう可能性がある。また、構想の段階では深い思考ができていないものの、英語の語彙や表現の乏しさから、それを英作文に反映しきれていない生徒も散見された。今後、思考力と英語力の両方にアプローチする手法を模索する必要があるだろう。

引用・参考文献

- 今井理恵・峯島道夫 (2017). 「コミュニケーション英語 I」で批判的思考力を育てる CT スキルズ一覧表と核となるパフォーマンス課題の開発」『全国英語教育学会紀要』28, 365-380.
- 荻谷剛彦 (1996). 『知的複眼思考法』講談社.
- 楠見 孝・村瀬公胤・武田明典 (2016). 「小学校高学年・中学生の批判的思考態度の測定－認知的熟慮性・衝動性、認知された学習コンピテンス、教育プログラムとの関係－」『日本教育工学会論文誌』40 (1), 33-44.
- ちょんせいこ (2016). 『ホワイトボード・ミーティング®検定試験公式テキスト Basic 3 級』株式会社ひとまち.
- ちょんせいこ (2022). 『13歳からのファシリテーション コミュニケーション力が身につく本』メイツ出版.
- 長濱文与・安永 悟・関田一彦・甲原定房 (2009). 「協同作業認識尺度の開発」『教育心理学研究』57 (1), 24-37.
- 三垣雅美 (2019). 「批判的思考」を育成する英作文指導の実践的研究」『国際バカロレア教育研究』3, 43-50.
- 道田泰司 (2012). 『最強のクリティカルシンキング・マップ：あなたに合った考え方を見つけよう』日本経済新聞出版社.
- 文部科学省 (2018a). 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編』学校図書.
- 文部科学省 (2018b). 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』東洋館出版.
- 山本耕司・上原明子・浦崎多恵子・大城 賢 (2018). 「質の高いコミュニケーション能力の育成（2 年次）: アクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践を通して」『琉球大学附属中学校研究紀要』30, 107-118.
- Ennis, R. H. (1989). Critical thinking and subject specificity: Clarification and needed research. *Educational Researcher*, 18, 4-10.
- Meyer, H. (2008). The pedagogical implications of L1 use in the L2 classroom. *Maebashi Kyoai Gakuen College Ronshu*, 8, 147-159.
- Ohba, H. (2018). Using a facilitation technique to foster learner autonomy for communication in English based on WHITEBOARD MEETING®. *Motivation, Identity and Autonomy in Foreign Language Education*, 198-203.

資料

授業実践前・中・後の質問紙調査の質問項目

批判的思考態度（楠見・村瀬・武田、2016に基づく）

・一般的批判的思考態度

因子：証拠の重視（E）、探究心（I）、論理的思考（L）、客観性（O）、

E1 2つの考えのうちどちらかに決めるときには、できるだけ多くの証拠を調べる。

E2 はっきりとした理由を考えて自分の行動を決める。

I1 新しいことをつぎつぎ学びたいと思う。

I2 いろいろな考え方の人と接して、多くのことを学びたい。

L1 他の人も納得できるように、理由をつけて説明をしようとする。

L2 話し合いをするときは、自分の意見と他の人の意見を比べる。

L3 他の人の考えを自分の言葉でまとめてみる。

O1 1つ2つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする。

O2 人の意見を聞いたり本を読んだりするときは、実際にあったことなのか、その人の意見なのか区別する。

O3 思い込みで判断しないようにいつも気をつけている。

・学習場面の批判的思考態度

因子：授業に基づく考えの深め方（F）、授業の受け方（J）、意見の聞き方（K）

F1 授業で学んだことを使って自分なりに新しいことを考えてみる。

F2 授業で学んだことを普段の生活や社会の出来事にあてはめて考えてみる。

F3 授業に関心を持ったことについて自分で本や資料を調べてみる。

F4 授業で学んだことの中なかで大事なことを、自分の言葉でまとめてみる。

F5 授業では積極的に質問をする。

F6 授業の前に、毎回の授業のまとめができるか自分でチェックする。

J1 その日の授業で何が大切なことなのかを考えながら授業を聞く。

- J2 前の授業で学んだことが、その日の授業でどのように使われているかを考える。
- K1 意見を聞くときは、話におかしなところがないかを考えながら聞く。
- K2 意見を聞くときは、話している人の思い込みが入っていないかを考えながら聞く。

協同作業認識尺度（長濱・安永・関田・甲原，2009に基づく）

因子：協同効用（CE），個人志向（IO），互惠懸念（CM）

- CE1 たくさんの仕事でも、みんなと一緒にやれば出来る気がする。
- CE2 協同することで、優秀な人はより優秀な成績を得ることができる。
- CE3 みんなでいろいろな意見を出し合うことは有益である。
- CE4 個性は多様な人間関係の中で磨かれていく。
- CE5 グループ活動ならば、他の人の意見を聞くことができるので自分の知識も増える。
- CE6 協同はチームメートへの信頼が基本だ。
- CE7 一人でやるよりも協力した方が良い成果を得られる。
- CE8 グループのために自分の力（才能や技術）を使うのは楽しい。
- CE9 能力が高くない人たちでも団結すれば良い結果を出せる。
- IO1 周りに気遣いしながらやるより一人でやる方が、やりがいがある。
- IO2 みんなと一緒に作業すると、自分の思うようにできない。
- IO3 失敗したときに連帯責任を問われるくらいなら、一人でやる方が良い。
- IO4 人に指示されて仕事はしたくない。
- IO5 みんなで話し合っていると時間がかかる。
- IO6 グループでやると必ず手抜きをする人がある。
- CM1 協同は仕事の出来ないひとのためにある。
- CM2 優秀な人たちがわざわざ協同する必要はない。
- CM3 弱い者は群れて助け合うが、強い者にはその必要はない。

ファシリテーション

- 1 オープン・クエスチョンを使いこなすことが出来た。
- 2 オープン・クエスチョンを使うと、1人で考えるよりも様々なアイデアが湧いてきた。
- 3 オープン・クエスチョンを使うことで、英作文が書きやすくなった。
- 4 オープン・クエスチョンを使うことで、思考が深められた。

英語について

- 1 私は英語を学ぶのが楽しい。その理由。
- 2 私は英語の授業が好きである。その理由。
- 3 私は英語を使うことに自信がある。その理由。
- 4 英語の4技能のうち得意なのは（複数回答可）。その理由。
- 5 英語のどんな力を伸ばしたいと思いますか。その理由。

Effects of Instruction Based on the Facilitation Techniques on the Development of Critical Thinking in High School English Classes: Through the Practice of English Communication II

Chisato SUGITA* · Hiromasa OHBA**

ABSTRACT

The purpose of this paper is to examine the effect of teaching based on the facilitation techniques on the development of critical thinking in the English language classes in the upper secondary school. In the classroom practice, one class of the second year upper secondary school students in the English Communication II was taught group activities and writing activities using the facilitation techniques. In this practical study, an attempt was made to verify the effectiveness of the instruction by quantitatively and qualitatively analyzing the writing tasks conducted in each unit, in addition to pre-, during- and post-questionnaire surveys using the Critical Thinking Attitude Scale and the Cooperative Work Awareness Scale. The qualitative analysis suggested that the facilitation-based instruction was beneficial in promoting the learners' thinking, and deepening it, and might be effective in improving the objectivity of thinking, the logical thinking attitude, and the spirit of inquiry.

* Kanagawa Hodogaya Senior High School ** Humanities and Social Studies Education